

2017/3/17

(日々雑感 50)



不幸な事が起こらないようにするための「未然の予防」

あるいは「神さまの最大のプレゼントは何事も起こらないことだ」とか。もちろん悪いことが、ですが。

心の病で家族に大きな迷惑を掛けたことへの償いの気持ちから、とにかくその家族に、以降負担を掛けないように、成る丈、事を事前に自分で堰き止め、内々に処理してきました。何事もなかったように。事後の報告もせずに。

しかし、果たしてそれが良かったのか？正しかったのか？もちろん「し過ぎ」という意味です。

こちらの思いや苦労とは別に、いつしか家族は、それが「常態」だと無意識に思うようになっていたのではないかと思ひ始めています。

堰き止めきれなかったほんの数件の事柄があると「何をやっているんだ」と大騒ぎになる。そうして、こちら側のフィールドに重っ切り土足で踏み込んできて、暴れ回る。

それではたまらないので、相手の側に一步でも踏み込んで話を始めると、横暴だ、押さえつけだと「言われなきそしりを受けた被害者」からの大合唱。

全部自分で背負って、一人で片付けてしまったことが、却って家族が「共有」することで生み出される、もっと良い何ものかの醸成の邪魔をして、知らぬ間の「甘えの温床」を作り上げてしまったのではないだろうか？

やはり軸がずれていた。何かを「し過ぎ」ていた。間違っていた。

そう思うに至りました。

そう言えば大先輩もおっしゃっていました「何でも一人でやってはいけない。一人でし過ぎてはいけない。ある程度、人に任せないと人が育たない」とも。

しかし、このオーバーシュート、アンダーシュート、あるいはオーバーラン、アンダーランを常になぞるようにセンターに合わせ続けるのは、至難の業（わざ）です。いや人間業ではないような気がします。

しかしそれを、気を抜かずに、常にやっていないとあつと言う間に、センター引力圏内から外れて、あらぬ漆黒の闇の彼方に行ってしまいます。

極めて困難な作業なのですが、どうやらそれをやり続ける以外に、我々には他に手がない

ようです。少なくとも、ぼくの知る限りにおいて「今のところ」は、ですが。

(追記)

家に帰れなくなって56日目。日々雑感を書き始めておおよそ50日目で記事50本。糸井重里ではありませんが「ほぼ日」ですかね。ウチはまだ「ほぼ日新聞・ほぼ日手帳」の(株)ほぼ日のように、公開株式市場に上場を果たしてはいませんが(笑)